勝ち残るSS目指す

CAL研究会 横浜市内で勉強会

【横浜】CAL研究会は10月23～24日、横浜市内で「CAL研究会」（勉強会）を開催し、全国から46人が参加した。

今回は「多様化するSSのテーマ」を掲げて実施。初日には同会の生川正洋氏が基調講演を行った。海外情勢を踏まえ、さらに超高齢化社会や経済力低下など、国内でもSSを取り巻く状況は厳しさを増していくと指摘し「これからは10%の企業だけが成長する厳しい時代が来る。CALに参加するみなさんには勝ち残る企業になってほしい」と訴えた。

研究会では智頭石油（出光系＝鳥取県智頭町）の米井哲郎会長が、長期型レンタカーを紹介。貸出期間が長く業務が少ない、繁盛期に左右されず稼働率が安定するなどの特徴をあげ、同社の取り組みもあわせて紹介した。「鳥取だけでなく、事業を島根のほうにも広げたい」と意欲を示し「CALレンタカーは料金やオプションなども細かく変えられる。ぜひ活用してほしい」と呼びかけた。

第十興産（出光系＝横浜市中区）の田中剛頭取は、同社の歩みをユーモアたっぷりに紹介。整備工場、独自ブランドのレンタカーだけでなくネイルサロン、フットサルコート、高級焼肉店など既存の枠にとらわれない新事業展開と企業買収を解説し「現代は本当に時代の流れが早い。その流れにちゃんと乗るかどうかが大事」と語った。同社の佐藤陽統括本部長、橋本直樹第二営業本部部長は「売るのではなく、買いにきてもらう」と題し第十興産の現在の取り組みを紹介した。

このほか同研究会の運営担当者がCALの顧客システムをLINEにひもづけし、顧客ごとにメッセージを発信するサービスや、現在開発中の車番認証システムについての説明を行った。



勉強会の様子